

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (278)

教科書体

夕食のあと、タモツ君のおばあさんがおじいさんと話しています。

「そうそう、あなた、教科書体って、ご存じ？」

「小学生用の教科書などで用いられている手書き文字に近い書体だろ。」

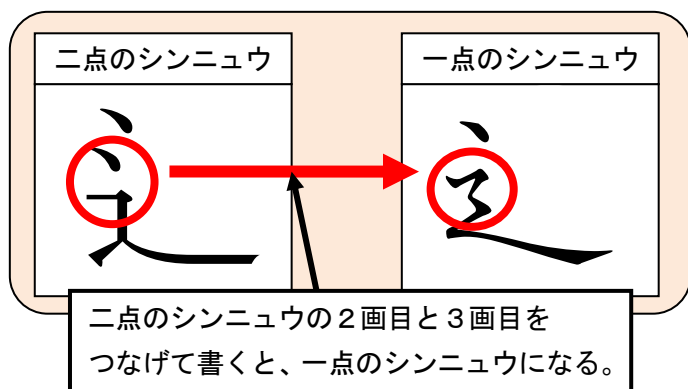
「そう。前にタモっちゃんに訊かれて驚いたのですが、教科書体にも二点のシンニュウがあるのですって。」

「これ、話題になったことがあったね。新たに常用漢字表に入った邇及の邇や謙遜の遜、謎という字は、二点のシンニュウ「𠂔」なのだよね。近・遠・進・退のように、書き文字のシンニュウは一点で、その下がくねくねと曲がるから、二点になる必要がないのだけれど、二点のシンニュウであることを意識して指導するために、二点のシンニュウの教科書体を造ったようだ。指導上の便宜ではあっても、すごい字を造ってしまったものだね。」

教科書体とは

文部科学省の学習指導要領(その中でも漢字の**学年別配当表**)で提示されている字体。

小学校の主に国語の教科書において本文の活字に使用されている書体で、
児童にとって仮名や漢字を習得する際に参考になるよう特別にデザインされたもの。



例えば「謎」は**常用漢字表**にはあるけれど、**学年別配当表**にはない漢字なので、小学校の教科書には登場しない。
教科書体で二点のシンニュウの「謎」があるのは、フォントデザイナーが「教科書体にすればこうなるはず」として造ったものだね。

「謎」のシンニュウは、**常用漢字表**では手書き文字では一点でも二点でもどちらでもよい、となっているのだけれど、学校で教えるときは教科書体を標準とするから、二点シンニュウの「謎」が正しい、とってしまいますね。

